

氏名	梶 谷 喬
学位の種類	医学博士
学位授与番号	甲 第 9 9 号
学位授与の日付	昭和38年 3 月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系小児科学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学位論文題目	精神薄弱児の脳波に関する研究
論文審査委員	教授 浜本英次 教授 奥村二吉 教授 高原滋夫

学 位 論 文 内 容 要 旨

精神薄弱児の脳波に関しては今日なお未開拓の分野が多い。著者は計184名の臨床的に癲癇を合併せざる精薄児の脳波に就き種々の面より検討を加えた。先ず Analyser による脳波分析値を同年齢の正常児対照群のそれと比較した。精薄児群では何れの年齢においても δ 波帯、 θ 波帯の徐波出現率が高く、正常児群との間に明らかな差を示したが、この徐波傾向は外因性精薄児に著明であった。又精薄児群には正常児群に比して過呼吸賦活に対する Build-up の著しいものが多く、開閉眼試験及び反復閃光刺激に対して全然反応しないものが多い傾向が認められた。

一方、これら精薄児脳波の特異的な所見を指標として、Methylphenidate, Pheniprazine, Imipramine, Reserpine, GABOB 及び Chlordiazepoxide の 6 種の向精神薬物を精薄児に投与して、これら薬物の精薄児脳波に及ぼす影響を検討し有意の変化を認めた。

以上の知見のもつ意義について検討し、特に精薄児脳波における基礎波の発達遅滞、各種刺激に対する反応の未熟性、脳波所見と精薄の推定原因との相関等について考察し、更に 6 種の向精神薬物の作用機序並びに精薄児におけるこれら薬物の有する病態生理学的意義について種々の面より考察を加えた。

(精神神経学雑誌 第65巻 第3号(昭和38年3月刊行)に掲載予定)

論文審査の結果の要旨

梶谷 喬提出の「精神薄弱児の脳波学的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

脳波は小児の歴年齢に従って成長する。著者は184名の精薄児の基礎波を自動電気分析装置によって7帯域に分け、その周波数出現率分布図を作り、200名の正常児の夫と比較検討した。

その結果精薄児の基礎波は除波の占める出現 energy %が同年正常児の夫より高く、脳波が若年化している事を見た。

又過呼吸賦活開閉眼試験、閃光刺激に対する反応も精薄児は未熟性を示す事を見ている。次に之等の知見に対して各種精神薬剤の示す効果を検した。

Methylphenidate, GABOB, Chlorliapoxide により r 波の減少と β 波の増加を見、Imipramine によって r 波の増加と α 波の減少を見ている。

又上記各種の誘発試験に対する之等薬剤の影響は精薄児に正常児よりも著明に反応する事を見ている。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有するものと認める。